

介護老人保健施設 しおさい

症 例 概 要 ご利用者：90代・女性・要介護2

病 名：アルツハイマー型認知症

利用サービス：令和5年3月～長期入所

経 過：令和5年3月までご自宅での介護困難のため他施設を転々とされた後、当施設へ長期入所となる。ご入所後、徐々に食事摂取量低下し、体力・気力共に低下。プライマリナースが中心となり、ご本人とご家族の思いに寄り添えることはないか話し合い、「家に帰りたい」という気持ちに寄り添い、外出支援を計画。数年ぶりにご自宅へ帰り、ご主人との思いでが詰まった空間で、ご家族の愛情を感じ幸せなお時間をもたらせた症例。

内 容

ご入所後、徐々に食事摂取量の低下が見られるようになり、食事形態や食事内容の変更等を繰り返しながら対応して来ました。しかし、食事摂取量の低下と共に体力や気力の低下も見られ、笑顔も減ってしまいました。そんなご本人に何か出来ることはないか、最期の時間が近づいてきた中で、ご家族の叶えたい思いはないか話し合いをしました。その中で、ご家族より、「ずっと様々な施設に預けてしまったから、叶うなら、ほんの少しの時間でも自宅に連れて帰ってあげたいです。」とのお気持ちを伺いました。そこでご本人のお気持ちも確認したところ、「帰る」とおっしゃったので、是非その願いを叶えたいと思いました。ご家族のご都合の良い日を調整していただき、その日を待ちました。

待ちに待ったご自宅への外出支援当日、出発する際には、大きな声で「よろしくお願いします。」とのお声が聞かれました。またご自宅までの道中では景色を見渡すなど、傾眠傾向にあったとは思えない様子でした。ご自宅に着くと、長女さんからの「おかえり」とのお声掛けに元気に「はい」とお返事をされ、群馬から駆けつけて下さった娘さんを見た瞬間には笑顔も溢れました。娘さんたちの名前を何度も呼んだり、懐かしいアルバムに目を通すなど穏やかな時間が流れました。

またご自宅のすぐ傍にあり、毎日お参りをしていた神社にも参拝しました。その帰り道に一本の立派なみかんの木があり、ご家族にお話しを伺ったところ、ご本人とご主人が大切に育てたみかんの木だという事がわかり、食べられる時期か何うと、「少し早いかもしれないけど、食べさせてあげたい」とのことなので、是非召し上がっていただきたいと私たちの気持ちを伝えさせていただきました。思い出のみかんを召し上がった際に、娘さんが「酸っぱいんじゃない?」と聞くと、はっきりと「美味しい」とおっしゃいました。もうずっと「美味しい」といった言葉も、積極的にお口を開けて召し上がる姿も見る事が出来ていな

かったので、その幸せそうなご様子に私達職員も涙でいっぱいでした。その後は、ご自宅の中でもひと時を過ごしました。また施設の車を見た近所の方が会いに来て下さったり、お家に帰ったことで思わぬ再会もありました。

人生の最期の時間が近づいていく中で、私たちは愛情を持って寄り添い、ご本人とご家族に輝きの時間とたくさんの笑顔をもたらすことができ、大変喜ばれました。3月末日、ご家族に見守られながらご逝去されましたが、ご逝去前日の最後の最後までご主人との思い出のみかんを召し上がりました。後日、ご家族からしおさいから自宅までの最後の道のりは桜も見ながら帰ることが出来て本当に幸せでしたとお言葉をいただきました。これからも最期の時間まで尊厳のある寄り添いのケアをしていきたいと思えます。